

北陸トンネル」工事の闇 群がる利権の構図！



残土搬出と 仮置き場指定を 骨材組合に誘導

昨年5月末、北陸新幹線「新北陸トンネル」(南越前町奥野々)の工事を大林・東亜・本間・塩浜のJV(特定建設工事共同企業体)が受注し、工事はすでに進行中。

鉄道・運輸機構(独立行政法人・鉄道建設・運輸施設整備支援機構)は予算確保↓設計↓設計書↓発注となり、請け負ったJVは受注↓施工↓工事完了となる。

トンネル残土運搬と仮置き場を含む設計単価も計算し、発注と受注契約が済んでいるにも関わらずトンネル残土の捨て場が明確に決まっていなかったと思われる。また残土の成分分析(有害物質)結果も不十分なまま見切り発注したのか、早期着工を優先するあまりの発注者責任を問われるが、トンネルから出る土の捨て場に県とJVは悩んでいた。そこに土木県幹部と内通し親交がある坂川建設の顧問であるM氏と仲倉典克県議チームが絵を描き、「骨材組合を通じて話をしなさい。いい場所がありますよ」と誘導させるべく耳打ち。本来なら仮置き場の提供の仲介だけをすれば良いことを、仲倉氏は残土

の仮置き場の提供と3次運搬まで特定業者に便宜を図るべくJVは骨材組合を通じて随意契約とし利権化するため「この工事はここまでですよ、大林JVさん。これから先は随契で骨材組合が受けます」と巧みに県と大林に仕込んだ。県の方も「トンネル残土の件は骨材組合へ行きなさいよ」と、大林に指示したという。

残土に関わる仕事を請負いたい土建、運搬業者が落札JVに頼みに行くと、「この事業に関われる業者は坂川・南越・高野や仲倉とM氏のところに行かなあかんよ」と言われたそうだ。

坂川建設と 仲倉が采配！ 業者に随契を支持

「これから先はこうしてくださいね」と仲倉氏が指示して組合から大林と県に陳情させる。そして「お前ら場所を



北陸新幹線「新

残土に

南越前町・越前市・越前町の土木建設業者の間では、県会議員中で仲倉氏しか使い者にならない。根っからの利権屋で話が早いと専らの噂。

提供してやってくれ。早期着工のために」と県に導いて誘導する知恵が利権の構図。

トンネル掘削で出てきた残土は、大林JVは骨材組合、鹿島JVは〇〇、熊谷JVは高野とすでに決まっていた1本目は南越、2は高野、3は〇〇が仕切る。これが随契による利権であり、骨材組合に加入する力ある幹部業者へ出し、その代り骨材組合が残土仮置き場所を提供する。

それらの事が石川与三吉県議の知る所となり仲倉氏を恫喝。「敦賀、葉原工区の鹿島JVの工事が出る残土は敦賀のものや。組合で土捨て場を提供する仕組みをズバンと外してしまえ。そっちはお前がやって、こっちは俺がやる」という話になった。これに異論を唱えた関係業者が、そんな思い通りにするならトンネル残土の運搬と置き場を叩き合いますか随契を止めますよ、あと2つの残土は敦賀火力発



北陸新幹線「新北陸トンネル」工事現場（南越前町奥野々）

電所下側の海の際、処理はしやすく排水溝を作り水を流し、仮置きをすれば敦賀管内に処理出来る、運搬土として県の公安工事にも使えるのでは。鹿島JVは砕石組合を使つてトンネル残土原石は再利用でき、葉原で出るトンネル残土一本分は新敦賀駅付近と敦賀工区間の工事で全量を使える見通しもある。

一方、熊谷JVは残土として自らの工事に使用する様子が骨材組合が随契で場所を決

め指定し1回仮置きとし再利用先へ運搬する。「ちゃんと図案ができてこの様にしましたので」と決まる。

県議は本来、県民の財産と生活を守るために働き血税から議員報酬を貰う。県と組合の間に入って工事を順調に進めるための努力なら評価されるが、それを利権化してはお話にならない。利権を積み上げればキャッシングボードがとれ「仲倉がいなかったら上手くいかな」となる。権限あ